

2023年度

A日程

学内推薦入試(博士前期課程)

東京理工系4大学 特別推薦入試(博士前期課程)

海外協定校特別推薦入試

一般入試(博士後期課程)

募集要項

機械専攻

電気・化学専攻

共同原子力専攻

自然科学専攻

建築・都市専攻

情報専攻

願書受付期間	2022年 5月 2日(月)～5月 5日(木) 必着
選考(試験)	5月11日(水)
合格発表	5月23日(月) 10:00
入学手続き期限	6月10日(金) 消印有効

東京都市大学大学院 アドミッションポリシー

東京都市大学大学院は、持続可能な社会発展をもたらすための人材育成を目的とし、その目的を達成するための学術研究の専門分野に対応して研究科を設置しています。各研究科では、それぞれ定めた「人材養成および教育研究上の目的」に基づき、以下のような能力・意欲・目標を持つ人を求めます。

博士前期課程

現代社会では、経済・社会・環境の3つの要素を考慮し、持続可能な社会開発が求められています。そのためには、確かな専門能力に基づき横断的かつ複合的に社会の諸問題を解決できる人材が必要です。そこで、入学を希望する学生には以下の項目に対して共有できることを求めます。

1. 本学の掲げる「教育理念」と「教育目的」への共感
2. 多面的かつ複合的な視点とそれに基づく論理的思考
3. 未知な問題に対する強い関心とその解決に対するチャレンジ精神
4. 専門的な能力を有するものとして必要なコミュニケーション力
5. 人間として持つべき倫理観

博士後期課程

現代社会では、経済・社会・環境の3つの要素を考慮し、持続可能な社会開発が求められています。その開発のためには諸課題の解決を図る高度な研究能力が必要であり、さらには、新しい課題そして新しい領域を開拓する能力を身に付けることが求められています。このため、以下の項目に対して共有できる学生を求めます。

1. 現代社会の抱える諸問題を認識し社会の発展に貢献する意欲
2. 未解決課題に対応するために自らの能力を開発する力
3. 地球的視野から様々な関係者と連携しつつ諸問題の解決に取り組む能力
4. 指導的な役割を果たすために必要な実行力
5. 研究活動に求められる適切な倫理観と行動特性を有していること。

設置概要

東京都市大学大学院学則第3条より――

日々進歩する科学技術と変化の激しい社会情勢を念頭に、高度で幅広い理工学に関する理論と実践力を修得させて、学際的視野を持って応用力の涵養を図るとともに高い倫理観と国際性をそなえさせることによって、科学技術に立脚した課題の発見と多角的視野から解決策を導くことで社会貢献ができる人材の養成を目的とする。

教育の理念

地球温暖化に象徴される環境問題の深刻化、モノと情報のボーダレス化、人口集中と過疎化、さらにエネルギーやレアメタルに代表される資源の偏在と枯渇化など、私たちが地球規模で捉え解決すべき問題は、複合化、多様化しています。このような難局を乗り切り、持続可能な社会を切り拓くためには、人類の英知を集めて対処する必要があります。科学技術創造立国という国是が謳われている我が国において、学術研究の拠点である大学、とりわけ大学院への期待は従前にも増して高まっています。それゆえ、総合理工学研究科は「技術者・研究者として社会の要請に応える」を理念として人材育成に当たっています。社会が抱えている諸課題は、単一の専門分野からの取り組みだけでは解決は望めない場合が多く、知識を総合化し広い視野を持った技術者・研究者の育成が求められています。さらに、他分野の専門家と協力して領域を越えた連携により、成果を出すためのコミュニケーション能力やマネジメント能力が、一層強く求められるようになっています。

このような社会からの要請に応えるために、総合理工学研究科では専門知識と技術の着実な習得に加えて、他研究機関との連携大学院制度などを活用しながら、各自の研究課題が社会の中でもつ意義、或いは社会への影響力を判断できる能力を養えるよう配慮しています。また、社会人を対象としたプログラムも用意して、これまで以上に社会とのつながりを強く意識した教育研究を行っています。このようなプログラムにより、専門領域の知識・技術を身につけるだけでなく、科学技術と社会との結びつきから課題の解決をする技を身につけられるものと確信しています。

教育の目標

大学院総合理工学研究科では、社会から求められている国際的に活躍できる技術者・研究者を育てるための教育に取り組み、次のような能力を養うことを教育の目標としています。すなわち、**①理工学におけるリテラシーである情報技術と語学を含めたコミュニケーション能力、②プレゼンテーション能力、③専門知識に裏付けされた課題を解決できる能力**、を身に付けた技術者ならびに研究者の養成です。モノ作りに関わる教育プログラムを重視し、進歩のスピードを一段と速めている高度技術社会へ対応するための能力育成を重視しています。新しい知識や広範な情報とその利用技術の重要性が、日常生活のあらゆる面で増す一方です。そこで、情報を多面的に活用する医療や経営の分野、さらに環境やエネルギー、ナノテク、バイオなどの新規分野を取り込み、その充実も図っています。モノから知識へと転換しつつある世の中とはいえ、モノの価値やモノ作りの重要性が低下している訳ではありません。むしろ、環境に配慮し、持続的な発展を可能とする付加価値を付けたモノを世に送り出すために、理工学の知識と技術の価値は従来にも増して高まっています。

育成すべき人材

□博士前期課程

自然科学や語学などの基礎となる科目、科学技術の基盤となる科目及び科学技術と社会の接点を理解するために必要な教養科目の習得が求められます。その上で、専門知識と技術が着実に身につけられるような教育プログラムが用意されています。そして、大学院生には専門知識を深化させるだけではなく、総合化することを求めています。各専攻では、博士前期課程において**専門知識を生かし、国際的に活躍できる語学力を養い、社会構造の変化に迅速に対応できる幅広い応用力と実践力を身に付け、課題を解決できる能力**を有する技術者・研究者を「育成すべき人材」として目標としています。

□博士後期課程

専門知識と技術を一層深化させると同時に、他大学や研究機関あるいは企業との共同研究などを通して、コミュニケーション能力やマネジメント能力を涵養しながら高度な研究能力が身に付けられる環境を整えています。各専攻では、博士後期課程修了後には、国内外の大学や研究機関、さらに企業の研究部門において、**先端的な知識と技術を駆使し、着実に課題を解決するとともに、新しい領域を開拓できる能力**を備えた技術者・研究者として活躍できる人材となることを目標とした指導を行い、自らが脱皮し成長できるような支援をしています。

今後への期待

学部における教育課程では、専門理工学基礎を身につけ、卒業研究ではそれを活用する経験を積んできたと思います。入学された大学院では、それらの知識と経験を活用して、さらに工夫を加えて「知恵」を磨くことが肝要です。このことを心がけて、上記目標に沿う人材として研鑽を重ね、人間として、技術者・研究者として成長することを期待しています。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー） - 大学院総合理工学研究科 -

□博士前期課程

高度な専門知識を学ぶとともに国際的に活躍できる語学力を養うことで研究能力を高め、これらの能力に裏付けられた課題発見力と解決力を活かして社会情勢の変化に迅速に対応することで、科学技術社会に幅広く貢献できる能力を身に付けさせることが教育の目標です。このため、入学を希望する学生に求めている資質と能力は、以下の項目を具備していることです。

1. 総合理工学研究科の掲げる「教育の理念」と「教育の目標」へ共感
2. 理工系専門学力の基礎を有し、多面的な視点からの論理的思考
3. 未知な研究分野への強い関心とチャレンジ精神
4. 技術者・研究者として必要な語学力と高度な倫理観

□博士後期課程

先端的な知識と技術を駆使し、社会からの要請に応えるための課題を設定し、その課題を着実に解決するとともに、新しい領域を開拓できる能力を養うことを教育の目標にしています。このため、入学を希望する学生に求めている資質と能力は、博士前期課程において、上記の4項目を十分に身に付けた上で、以下の4項目を具備していることです。

1. 未開の知見を得るための研究活動に必要な幅広い専門学力
2. 自立した研究者になるために、課題解決を目指す研究遂行の持続力
3. 社会における指導的な役割を果たすために必要な実行力
4. グローバルに活躍できるコミュニケーション能力の基礎

教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー） - 大学院総合理工学研究科 -

□博士前期課程

理工学に関する高い専門性、語学力及び情報活用能力を修得させることによって、学際的な分野への対応能力を含めた専門的深化により応用力を培うとともに倫理観と国際性をそなえさせ、これらの能力に裏付けられた課題発見力と解決力を活かして社会情勢の変化に迅速に対応することで、科学技術社会に幅広く貢献できる人材を養成するため、次のように教育課程を編成する。

1. 理工学に関する専門知識と実践力を国際社会の発展に役立てられるように、総合教養科目群及び総合基礎科目群を編成し、英語の語学能力や情報活用能力の他、国際感覚が身に付く科目を編成する。
2. 社会構造の変化に迅速に対応できる幅広い理工学に関する高度な専門知識と実践力が身に付くように、各専攻において専門基礎科目群と専門科目群を編成し、専門基礎科目群の科目履修により専門的な基礎知識を、また、専門科目群の科目履修により実践的な力が身に付くように、編成する。
3. 国際社会における理工学に関する課題を自らが発見し解決できる能力が身に付くように、各専攻において実習と特別研究を編成する。

□博士後期課程

学際的視野を持って自立して研究活動を行うのに必要な理工学に関する学識、研究能力、倫理観及び国際性を高度にそなえさせることによって、先端的な知識と技術を駆使して、社会からの要請に応えるための課題を設定し、その課題を着実に解決できるとともに、新しい領域を開拓できる人材を養成するため、次のように教育課程を編成する。

1. 理工学に関する新たな知見をまとめて学問として専門知識を体系化できる能力が身に付くように、各専攻において講究科目群を編成する。
2. 他研究・開発機関との技術交流を通じて、先端的な知識と技術を駆使し社会ニーズを意識しながら、着実に課題を解決するとともに新しい領域を開拓できる研究能力が身に付くように、各専攻において特殊研究科目群を編成し、他大学や企業との共同研究を推進する。

学位授与に関する方針（ディプロマポリシー） - 大学院総合理工学研究科 -

□博士前期課程

所定の年限在学し、以下の知識と能力とともに所定の単位数を修得し、必要な研究指導を受けた上で修士論文又は特定の課題についての研究成果等の審査及び最終試験に合格した者に、専攻に応じて修士（工学）又は修士（理学）の学位を与える。

1. 理工学に関するより高度な専門知識と実践力を、国際社会発展のために役立てることのできる語学及び情報活用能力を身に付けている
2. 社会構造の変化に迅速に対応できる幅広い理工学に関する高度な専門知識を有し、それを応用できる実践力を身に付けている
3. 国際社会における理工学に関する課題を自らが発見し、解決できる能力を身に付けている

□博士後期課程

所定の年限在学し、以下の知識と能力とともに所定の単位数を修得し、必要な研究指導を受けた上で博士論文の審査及び最終試験に合格した者に、専攻に応じて博士（工学）又は博士（理学）の学位を与える。

1. 理工学に関する新たな研究によって得られた知見をまとめあげ、より深化した学問として専門知識を体系化できる能力を身に付けている
2. 他研究・開発機関との技術交流を通じて、先端的な知識と技術を駆使し社会ニーズを意識しながら、着実に課題を解決するとともに新しい領域を開拓できる研究能力を身に付けている。

指導教授（予定）

2023年4月予定

専攻	領域	英語による 修士論文指導	英語による 授業実施	職位	指導教授		
機械	機械工学	●	—	教授	伊東 明美		
		●	—	教授	白木 尚人		
		●	●	教授	藤間 卓也		
		●	—	教授	榎 徹雄 ○		
		●	●	教授	三原 雄司		
		●	●	准教授	亀山 雄高		
		●	●	准教授	岸本 喜直		
		—	☆	准教授	小林 志好		
		—	—	准教授	櫻井 俊彰		
		●	—	准教授	佐藤 秀明		
		●	—	准教授	杉町 敏之		
		●	●	准教授	西部 光一		
		●	—	准教授	富士原 民雄		
		●	●	准教授	丸山 恵史		
		●	●	教授	秋田 貢一		
		機械システム工学	●	●	教授	島野 健仁郎 ○	
	●		●	教授	田中 康寛		
	●		●	教授	野中 謙一郎		
	●		●	教授	三宅 弘晃		
	●		●	教授	宮坂 明宏		
	●		●	准教授	熊谷 正芳		
	●		—	准教授	佐藤 大祐		
	●		●	准教授	白鳥 英		
	●		●	准教授	関口 和真		
	●		●	准教授	永野 秀明		
	●		●	准教授	藪井 将太		
	●		●	准教授	渡邊 力夫		
	—		●	講師	土方 規実雄		
	電気・化学		電気電子工学	●	●	教授	岩尾 徹
				●	●	教授	澤野 憲太郎
				●	●	教授	中島 達人
		●		●	教授	野平 博司	
●		●		教授	藤田 博之		
●		●		教授	三谷 祐一郎		
●		●		准教授	石川 亮佑		
●		●		准教授	鈴木 憲吏		
●		●		准教授	鳥居 肅		
●		●		准教授	星 裕介		
●		●	講師	瀬戸 謙修			
●		●	講師	ニコ スランタ			
●		●	講師	リム イン イン			
●		●	教授	京相 雅樹			
●		●	教授	桐生 昭吾			
●		☆	教授	早坂 信哉			
●		●	教授	森 晃			
●		●	教授	和多田 雅哉			
●		●	准教授	桃沢 愛			
●		●	准教授	横山 草介			
応用化学	—	☆	講師	小林 千尋			
	●	●	教授	江場 宏美			
	●	●	教授	金澤 昭彦			
	●	●	教授	黒岩 崇			
	—	—	教授	高橋 政志			
	—	—	教授	宗像 文男			
	—	—	准教授	岩村 武			
	●	●	准教授	高津 淑人			
	●	●	准教授	小林 亮太			
	●	●	准教授	塩月 雅士			
共同原子力	共同原子力	●	☆	教授	大島 靖樹		
		●	☆	教授	河原林 順		
		●	☆	教授	佐藤 勇		
		●	☆	教授	鈴木 徹		
		●	☆	教授	高木 直行		
		●	☆	教授	中村 いずみ		
		●	☆	准教授	羽倉 尚人		
		●	☆	准教授	松浦 治明		
		●	☆	准教授	牟田 仁		
		建築・都市	自然科学	—	—	教授	飯島 正徳
●	●			教授	長田 剛		
●	●			教授	須藤 誠一		
●	☆			教授	田邊 顕一郎		
—	—			教授	福田 達哉		
—	—			教授	吉田 真史		
●	●			准教授	津村 耕司		
●	—			准教授	中島 保寿		
●	●			准教授	西村 太樹		
—	—			准教授	服部 新		
—	—			准教授	堀越 篤史		
—	—			講師	門下 顕司		
●	●			教授	岩下 剛		
—	—			教授	小見 康夫		
●	●			教授	小林 茂雄		
—	—			教授	近藤 靖史 ○		
建築学	●		●	教授	手塚 貴晴		
	—		—	教授	福島 加津也		
	—		—	教授	堀場 弘		
	●		●	准教授	大村 哲矢		
	●		●	准教授	佐藤 幸恵		
	●		●	准教授	焦 瑜		
	—		—	准教授	中川 純		
	—		—	講師	落合 陽		
	—		—	講師	片桐 悠自		
	●		☆	教授	伊藤 和也		
	●		●	教授	白旗 弘実		
	●		●	教授	末政 直晃		
	●		●	教授	長岡 裕		
	●		●	教授	丸山 收		
	●		☆	教授	吉田 郁政 ○		
	都市工学		●	●	准教授	秋山 祐樹	
●		●	准教授	稲垣 具志			
●		●	准教授	栗原 哲彦			
●		●	准教授	五體 隆志			
●		●	准教授	関屋 英彦			
●		●	准教授	三上 貴仁			
●		●	教授	荒井 秀一			
●		●	教授	大屋 英稔			
●		●	教授	岡野 好伸			
●		●	教授	河合 孝純			
●		●	教授	佐和橋 衛			
●		●	教授	傘 昊			
●		●	教授	柴田 随道			
●		●	教授	高橋 弘毅			
●		●	教授	田口 亮			
情報		情報工学	●	●	教授	中野 秀洋	
	●		●	教授	向井 信彦		
	●		—	教授	山口 敦子		
	●		—	教授	俞 明連		
	●		●	教授	横山 孝典 ○		
	—		—	准教授	相原 研輔		
	—		●	准教授	張 英夏		
	●		●	准教授	陳 オリビア		
	システム工学	—	—	准教授	新家 稔央		
		—	—	准教授	林 正博		
		●	—	准教授	平野 拓一		
		●	●	教授	桂 卓成		
		●	●	教授	塩本 公平		
		●	●	教授	神野 健哉		
		●	●	教授	田中 宏和		
		●	●	教授	包 躍		
●	●	教授	葉村 真樹				
●	●	教授	森 博彦				
●	☆	講師	六田 一				

○：2024年3月に退職

英語による論文指導 英語による授業実施指導対応
 ●：対応可 ●：対応可
 —：対応不可 ☆：授業によって対応可
 —：対応不可

※教育上の配慮から日程によっては学生募集しない指導教授もあります。

指導教授（予定）

2023年4月予定

専攻	領域	英語による 博士論文指導	英語による 授業実施	職位	指導教授
機械	機械工学	●	—	教授	伊東 明美
		●	—	教授	白木 尚人
		●	●	教授	藤間 卓也
		●	—	教授	槇 徹雄 ○
		●	●	教授	三原 雄司
		●	●	准教授	亀山 雄高
		●	●	准教授	岸本 喜直
		●	—	准教授	佐藤 秀明
		●	—	准教授	杉町 敏之
	●	●	准教授	西部 光一	
	●	●	准教授	丸山 恵史	
	機械システム工学	●	●	教授	秋田 貢一
		●	●	教授	島野 健仁郎
		●	●	教授	田中 康寛
		●	●	教授	野中 謙一郎
		●	●	教授	三宅 弘晃
		●	●	教授	宮坂 明宏
		●	●	准教授	熊谷 正芳
		●	●	准教授	白鳥 英
		●	●	准教授	関口 和真
		●	●	准教授	永野 秀明
電気電子工学	●	●	准教授	藪井 将太	
	—	●	講師	土方 規実雄	
	●	●	教授	岩尾 徹	
	●	●	教授	澤野 憲太郎	
	●	●	教授	中島 達人	
	●	●	教授	野平 博司	
	●	●	教授	藤田 博之	
	●	●	教授	三谷 祐一郎	
	●	●	准教授	石川 亮佑	
	●	●	准教授	鈴木 憲史	
電気・化学	医用工学	●	●	准教授	鳥居 肅
		●	●	准教授	星 裕介
		●	●	講師	瀬戸 謙修
		●	●	講師	ニコ スラント
		●	●	講師	リム イン イン
	●	●	教授	京相 雅樹	
	●	●	教授	桐生 昭吾 ◎	
	●	☆	教授	早坂 信哉	
	●	●	教授	森 晃 △	
	●	●	教授	和多田 雅哉	
応用化学	●	●	教授	江場 宏美	
	●	●	教授	金澤 昭彦	
	●	●	教授	黒岩 崇	
	—	—	教授	高橋 政志 △	
	—	—	教授	宗像 文男 ◎	
	—	—	准教授	岩村 武	
	●	●	准教授	高津 淑人	
	●	●	准教授	小林 亮太	
	●	●	准教授	塩月 雅士	
	●	●	准教授	秀島 翔	
共同原子力	共同原子力	●	●	教授	大鳥 靖樹
		●	☆	教授	河原林 順
		●	●	教授	佐藤 勇
		●	●	教授	鈴木 徹
		●	●	教授	高木 直行
		●	☆	教授	中村 いずみ
		●	☆	准教授	羽倉 尚人
		●	●	准教授	牟田 仁

専攻	領域	英語による 博士論文指導	英語による 授業実施	職位	指導教授
建築	自然科学	●	●	教授	長田 剛
		●	●	教授	須藤 誠一
		●	☆	教授	田邊 颯一郎
		—	—	教授	福田 達哉
		—	—	教授	吉田 真史
		●	●	准教授	津村 耕司
		●	—	准教授	中島 保寿
		●	●	准教授	西村 太樹
		—	—	准教授	服部 新
		●	●	教授	岩下 剛
	建築学	—	—	教授	小見 康夫
		●	●	教授	小林 茂雄
		—	—	教授	近藤 靖史 ○
		●	●	准教授	大村 哲矢
		●	●	准教授	佐藤 幸恵
		●	●	准教授	焦 瑜
		—	—	准教授	中川 純
		—	—	講師	片桐 悠自
		●	☆	教授	伊藤 和也
		●	●	教授	白旗 弘実
	都市工学	●	●	教授	末政 直晃
●		●	教授	長岡 裕 ◎	
●		●	教授	丸山 收 ◎	
●		☆	教授	吉田 郁政 ○	
●		●	准教授	秋山 祐樹	
●		●	准教授	稲垣 具志	
●		●	准教授	栗原 哲彦	
●		●	准教授	五艘 隆志	
●		●	准教授	関屋 英彦	
●		●	准教授	三上 貴仁	
情報工学	●	●	教授	荒井 秀一	
	●	●	教授	大屋 英稔	
	●	●	教授	岡野 好伸	
	●	●	教授	河合 孝純	
	●	●	教授	佐和橋 衛 ◎	
	●	●	教授	傘 昊	
	●	●	教授	柴田 随道 ◎	
	●	●	教授	高橋 弘毅	
	●	●	教授	田口 亮	
	●	●	教授	中野 秀洋	
情報	●	●	教授	向井 信彦 ◎	
	●	—	教授	山口 敦子	
	●	—	教授	愈 明連	
	●	●	教授	横山 孝典 ○	
	—	—	准教授	相原 研輔	
	—	●	准教授	張 英夏	
	●	●	准教授	陳 オリビア	
	—	—	准教授	新家 稔央	
	—	—	准教授	林 正博	
	●	●	准教授	平野 拓一	
情報システム	●	●	教授	桂 卓成	
	●	●	教授	塩本 公平	
	●	●	教授	神野 健哉	
	●	●	教授	田中 宏和	
	●	●	教授	包 躍 ◎	
●	●	教授	森 博彦		

○：2024年3月に退職
◎：2025年3月に退職
△：2026年3月に退職

英語による論文指導 英語による授業実施指導対応
●：対応可 ●：対応可
—：対応不可 ☆：授業によって対応可
 —：対応不可

※教育上の配慮から日程によっては学生募集しない指導教授もいます。

試験概要・受験上の注意

1. 入学試験概要

		A日程	
博士前期 課程	推薦試験	学内推薦入試	<p>本学からの進学希望者で、学力・人物ともに優秀な学生については、推薦による入学を認めます。</p> <p>【選考方法】①出願書類に関する審査 ②面接試験</p>
		東京理工系 4大学 特別推薦入試	<p>『東京理工系大学 学術と教育の交流に関する協定』に基づき、芝浦工業大学、東京電機大学、工学院大学から推薦のあった学生を対象として入学者の受け入れを行います。</p> <p>【選考方法】①出願書類に関する審査 ②面接試験</p>
		海外協定校 特別推薦入試	<p>海外協定校からの進学希望者で、所属する学科等の主任教授等、及び在籍大学又は大学院の学長に相当する者の推薦を得ている者について、出願書類に関する審査及び面接試験を総合して選考します。</p> <p>【選考方法】①出願書類に関する審査 ②面接試験</p>
博士後期 課程	一般試験	一般入試 一般選抜	<p>出願書類に関する審査及び口述試験を含む面接試験により選考します。</p> <p>【選考方法】①出願書類に関する審査 ②面接試験（口述試験を含む）</p>
		一般入試 社会人選抜	<p>出願時に十分な実務経験（2年以上）を有している者について、出願書類に関する審査及び口述試験を含む面接試験を総合して選考します。</p> <p>【選考方法】①出願書類に関する審査 ②面接試験（口述試験を含む）</p>
	推薦試験	海外協定校 特別推薦入試	<p>海外協定校からの進学希望者で、所属する学科等の主任教授等、及び在籍大学又は大学院の学長に相当する者の推薦を得ている者について、出願書類に関する審査及び面接試験を総合して選考します。</p> <p>【選考方法】①出願書類に関する審査 ②面接試験</p>
出願期間	2022年 5月 2日（月）～5月 5日（木） 必着		
試験日時	5月11日（水） 13時30分～		
合格発表	5月23日（月）		
手続期限	6月10日（金）		
試験場	<p>本学 世田谷キャンパス</p> <p>試験室等の詳細は、試験日に掲示等で指示します。</p>		

※ 別途指示の上、WEB等を利用して面接試験を実施する場合があります。

※ 国外からの志願者はオンラインでの受験を認めます。

学内推薦入試要項（博士前期課程）

この要項は、東京都市大学から東京都市大学大学院総合理工学研究科への推薦入学希望者で、かつ出願資格を満たしている者を対象としたものです。本学工学部・知識工学部の学生の他、環境学部・メディア情報学部・都市生活学部・人間科学部からの推薦入学希望者も対象とします。

1. 募集人員

研究科	専攻	募集人員
総合理工学研究科	機械専攻	60名
	電気・化学専攻	66名
	共同原子力専攻	15名
	自然科学専攻	15名
	建築・都市専攻	54名
	情報専攻	66名

※2023年度入試全体の人数です。

2. 出願資格

本学卒業見込者であり、次の各号の一に該当するとともに本学大学院総合理工学研究科の志望専攻^{*}への進学を第1志望とし、合格後に志望専攻^{*}への入学を確約する者。

- (1) 学部3年終了時における学業成績上位者（学部の成績が学科全体の1/2以内であること）
- (2) 2022年2月に東京都市大学大学院総合理工学研究科入学試験（C日程）と同時に実施した『推薦試験（A日程）出願資格取得のための認定試験』に合格した者

※(2)に該当する場合は、当該認定試験の出願時に記載した専攻・領域・指導教員でのみ出願できるものとする。

東京理工系4大学特別推薦入試要項（博士前期課程）—東京理工系大学 学術と教育の交流に関する協定

この要項は、芝浦工業大学、東京電機大学及び工学院大学から、東京都市大学大学院総合理工学研究科へ特別推薦入学を希望する者を対象としたものです（本学工学部及び知識工学部の在学学生で芝浦工業大学大学院、東京電機大学大学院及び工学院大学大学院への特別推薦入学を希望する者は、希望する大学院の特別推薦入試要項を確認してください）。

1. 募集人員

研究科	博士前期課程 受入専攻名	推薦受入人員		
		芝浦工業大学	東京電機大学	工学院大学
総合理工学研究科	機械専攻	1名	1名	1名
	電気・化学専攻	1名	1名	1名
	共同原子力専攻	1名	1名	1名
	自然科学専攻	1名	1名	1名
	建築・都市専攻	1名	1名	1名
	情報専攻	1名	1名	1名

2. 出願資格

- (1) 当該大学に在学し、翌年3月卒業見込の者。
- (2) 当該大学の学内推薦基準に達している者。

※必ず在籍大学の担当窓口での相談を経た上で出願してください。

海外協定校特別推薦入試要項(博士前期課程・博士後期課程)

この要項は、東京都市大学海外協定校から東京都市大学大学院総合理工学研究科への推薦入学希望者で、かつ以下の出願資格を満たしている者を対象としたものです。

1. 募集人員

若干名

2. 出願資格

海外協定校からの進学希望者で、下記の「一般選抜」の出願資格を充たしており、所属する学科等の主任教授、及び在籍大学又は大学院の学長に相当する者の推薦を得ている者。(2023年3月卒業見込み者を含む)

【参考】一般選抜における出願資格

博士前期課程

本大学院の博士前期課程に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 大学を卒業した者(2023年3月卒業見込み者を含む)
- (2) 大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者(2023年3月修了見込み者を含む)
- (4) 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修することにより当該国の16年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学相当として指定した外国の学校の課程を修了した者
- (6) 外国の大学等(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上の課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者
- (7) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者
- (9) その他本大学院において大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

注意

- ・(6)または(9)での出願を志望する場合、予め該当の可否を判断するため、出願開始から30日以上前までにお問い合わせください。

博士後期課程

本大学院の博士後期課程に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者(2023年3月修了見込み者を含む)
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者(2023年3月修了見込み者を含む)
- (3) 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (4) 我が国において、外国の大学院相当として指定した外国の学校の課程を修了し、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) その他本大学院において修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

注意

- ・(7)での出願を志望する場合、予め該当の可否を判断するため、出願開始から30日以上前までにお問い合わせください。

一般入試要項（博士後期課程）

1. 募集人員

研 究 科	専 攻	募 集 人 員
総合理工学研究科	機械専攻	8名
	電気・化学専攻	8名
	共同原子力専攻	4名
	自然科学専攻	2名
	建築・都市専攻	8名
	情報専攻	8名

※2023年度入試全体の人数です。

2. 出願資格

◎一般選抜

本大学院の博士後期課程に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者（2023年3月修了見込み者を含む）
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者（2023年3月修了見込み者を含む）
- (3) 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (4) 我が国において、外国の大学院相当として指定した外国の学校の課程を修了し、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) その他本大学院において修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者*

※予め該当の可否を判断するため、出願開始日から30日以上前までにお問い合わせください。

◎社会人選抜

出願時に十分な実務経験（2年以上）を有し、かつ「一般選抜」の出願資格を充たしている者

*社会人選抜による入学者を対象とした授業料の減免制度があります（最短修業年限のみ適用）。志願者の希望に基づき本学による審査の結果、博士後期課程では授業料年額の90%を減免する場合があります。

1. 出願承諾確認

※別表「指導教授（予定）」参照

志願者は出願の前に志望する指導教授と必ず協議し、事前にメールで指導教授の出願承諾を受けて下さい。

※別表「指導教授（予定）」に○印、◎印または△印のある指導教授は、在学期間中に交代する可能性があります。
当該指導教授を志望する場合は、その後に研究指導を引き継ぐ予定の教員の承諾も要します。

2. 検定料

35,000 円 入学検定料は検定料決済システムにより払い込んで下さい。払込期間は出願期間に準じます。

※入学検定料の納入の際には入学検定料の他に決済手数料（990 円）がかかります。

URL <http://www.guide.52school.com/guidance/pay-tcu-g/>

3. 出願書類一覧

下表「対象」欄●印が提出を必要とする書類です。課程・試験種別によって異なりますので注意して下さい。

※各種証明書は出願日から起算して、3ヶ月前以内に発行されたものに限りません。

	対象		所定 用紙	出願手続き書類	注 意 事 項
	博士前期課程	博士後期課程			
1	●	●	A 票	入学志願票	志望する専攻名を記載し、事前にメールで指導教授の出願承諾を受けて下さい。
1'	●	●	—	出願承諾確認メール	志望する指導教授から出願承諾を受けたことが分かるメールを A4 サイズで印刷し、同封してください。
2	●	●	B 票	入学検定料	35,000 円 入学検定料は検定料決済システムにより払い込み、システムから出力した収納証明書を B 票に貼り付けて下さい。なお、払込期間は出願期間に準じます。 URL http://www.guide.52school.com/guidance/pay-tcu-g/
3	●	●		副票（写真票）	出願前 3 ヶ月以内に撮影した上半身正面脱帽（たて 4 cm × よこ 3 cm）のものを B 票の所定欄に貼付してください。
4	●	●	C 票	志望理由書	志望理由を具体的に記載して下さい（様式におさまる範囲で作成すること）。
5	●	●	—	成績証明書	博士前期課程 志願者 大学学部の「成績証明書」 博士後期課程 志願者 大学学部の「成績証明書」 および大学院修士課程または博士前期課程の「成績証明書」 ※高等専門学校を卒業の方は、その成績証明書を提出して下さい。 <外国人留学生は、「7.外国人留学生の注意事項」を参照>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 本学工学部・知識工学部・総合理工学研究科・工学研究科出身者については、博士前期・博士後期とも提出不要 </div>				
6	●	●	—	卒業証明書・ 卒業見込証明書	博士前期課程 志願者 大学学部の「卒業見込証明書」 博士後期課程 志願者 大学院修士課程または博士前期課程の「修了証明書」 または「修了見込証明書」 <外国人留学生は、「7.外国人留学生の注意事項」を参照>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 本学工学部・知識工学部・総合理工学研究科・工学研究科出身者については、博士前期・博士後期とも提出不要 </div>				
7	—	● [社会人選抜] 志願者対象	D 票	業務経歴書	D 票（本人記入） E 票（本人を熟知する者記入）のうち、どちらかを提出して下さい。※E 票は厳封して提出 また、所定用紙の各項目を含んでいれば任意様式による提出でも可とします。
8	—	● [社会人選抜] 志願者対象	E 票	推薦書 （社会人選抜用）	*減免制度を希望される方は、「希望する」の口欄にレ点を入れて下さい。

	対象		所定 用紙	出願手続き書類	注 意 事 項
	博士前期課程	博士後期課程			
9	● 東京4理工大 特別推薦入試 志願者	—	F 票	推薦書 (東京4理工大 特別推薦入試用)	所属する大学の卒業研究の指導教員又は所属学科の主任教授と、所属大学の学長連名のものがが必要です。
10	● 海外協定校 特別推薦入試 志願者	● 海外協定校 特別推薦入試 志願者	G 票	推薦書 (海外協定校 特別推薦入試用)	志願者が所属する学科等の主任教授等、及び在籍大学又は大学院の学長に相当する者の連名の推薦書が必要です。
11	—	●	H 票	博士前期課程等における研究概要と博士後期課程における研究計画	* 社会人選抜志願者の修士課程または博士前期課程等における研究概要欄は、直近の研究概要を記載しても構いません。
12	● 外国人留学生 の志願者	● 外国人留学生 の志願者	I 票	外国人留学生 状況調査票	国籍や在留資格等の確認のためにパスポートの必要ページ(氏名・顔写真・サイン等記載ページ) および在留カード両面のコピーを添付すること。 ※日本国外に在住の場合、在留カードのコピーは提出不要
13	●	●	J 票	受験票宛名ラベル	「受験票」や「合格通知書」など受験関係書類の送付先宛名を明記すること。
14	● 学内推薦入試 志願者	—	—	認定試験合格証明書	推薦試験(A日程)出願資格取得のための認定試験を受験し合格基準に達した方のみ提出してください。 (2022年3月発行のもの)
15	● 中国の大学を 卒業した志願者	● 中国の大学を 卒業した志願者	—	学歴認証書	CHSIが発行する認証書を提出してください。 電子版の証明書を提出する場合は、CHESICCから本学教育支援センター宛に直接送付されたもののみを有効とします。 <以下「7.外国人留学生の注意事項」を参照のこと>
16	● 中国の大学を 卒業した志願者	● 中国の大学を 卒業した志願者	—	成績認証書	CHSIが発行する認証書を提出してください。 電子版の証明書を提出する場合は、CHESICCから本学教育支援センター宛に直接送付されたもののみを有効とします。 <以下「7.外国人留学生の注意事項」を参照のこと>
17	—	● 中国の大学を 卒業した志願者	—	学位認証書	(博士後期課程のみ) CDGDCが発行する認証書を提出してください。 電子版の証明書を提出する場合は、CDGDCから本学教育支援センター宛に直接送付されたもののみを有効とします。 <以下「7.外国人留学生の注意事項」を参照のこと>

4. 出願に関する注意事項

(1) 入学検定料の納入について

入学検定料は右記のサイト(<http://www.guide.52school.com/guidance/pay-tcu-g/>)にアクセスし、出願登録後、最寄りのコンビニエンスストア (セブン-イレブン・ローソン・ファミリーマート・ミニストップ・デイリーヤマザキ・セイコーマート)、ペイジー (「Pay-easy」マークのある全国のゆうちょ銀行や各銀行等の ATM) または、クレジットカードで納入してください。入学検定料の納入の際には入学検定料の他に決済手数料 (990 円) ががかかります。
※金融機関の窓口での取り扱いはいりません。また、領収書の発行はいたしません。
※一旦納入した入学検定料は、理由のいかんにかかわらず返還しませんので、充分注意してください。
※家族や知人が代理で手続きをする場合も、必ず志願者本人の情報を入力してください。

(2) 受験及び修学に際して特別な配慮を必要とする場合

出願時に健康診断書の提出は必要ありませんが、身体の障がい等により、受験及び修学に際して特別な配慮を必要とする場合は、出願前に教育支援センターまでその旨を連絡して下さい。

(3) 原本が1部しかない場合

海外の大学出身者で、提出書類の原本が一部しかない場合でも、必ず原本の確認をしますので、その場合には出願前に教育支援センターへ申し出てください。
一度提出された書類は原則返却しませんが、返却を希望する学生は事前に相談してください。

(4) 出願できる専攻・指導教授について

出願できるのは、1つの日程につき1専攻(1領域)かつ1名の指導教授に対してのみとします。
1つの日程における出願で複数の専攻(領域)への出願や、複数の指導教授に対して出願することはできません。

(5) 日本の在留資格を有していない場合

日本の在留資格を有していない者は、新規での査証申請が必要となるため、入国が遅れる恐れがあります。

(6) 出願について不明な点がある場合

その他不明な点がある場合は、世田谷キャンパス 教育支援センター 大学院入試 担当に問い合わせして下さい。
メール: sckyomu@tcu.ac.jp

5. 出願書類の到達確認・受理について

出願書類の到達確認は、簡易書留またはレターパックの追跡番号により行ってください。
書類に不備がある場合は出願を認めませんので、よく確認の上、出願してください。
到達確認・個別の受理確認の問い合わせには対応いたしかねますので、ご遠慮ください。

6. 受験票の発送について

受験番号は電子メールでも通知します。
また受験票の発送も行いますが、試験日まで未着の場合は、電子メールでの通知を以て受験票に代えます。
試験日2日前までに通知がない場合は「世田谷キャンパス 教育支援センター 大学院入試 担当」に問い合わせして下さい。
メール: sckyomu@tcu.ac.jp

本学では5～10月の期間、節電の必要性及び地球温暖化防止対策と省エネルギーの一環として、室内のエアコンの設定温度を控えめにし、ノーネクタイで執務しています。
入試当日については、教職員は「ノーネクタイ・ノー上着」で実施することとしますので、ご理解ご協力をお願いします。

7. 外国人留学生の注意事項

出願書類：5	成績証明書
出願書類：6	卒業証明書・卒業見込証明書

に関する注意点です。

以下の記載事項は日本国外の大学を卒業（修了）又は卒業（修了）見込の志願者を対象としています。

1. 自国の最終出身校が発行した「成績証明書」「卒業（修了）証明書」を必ず提出してください。証明書をもらう場合は、必ず学校の公印が押されたものを提出してください。証明書が複数ページにわたる場合は、すべてのページにおいて必要です。
2. 「成績証明書」「卒業（修了）証明書」は、原本または certified true copy（原本から正しく複製されたものであることを卒業（修了）した学校や大使館等の機関によって証明されたコピー）を提出してください。
3. 日本語・英語以外で記載されている場合には、日本語または英語の訳文をつけてください。訳文は大使館などの公的機関で原本の意味と相違がない旨の証明を受けてください。
4. 「卒業（修了）証明書」のほかに、「卒業（修了）証書（Diploma）」のコピーも可能な限り提出してください。
5. 証明書の氏名・生年月日等がパスポートの記載と異なる場合は、大使館等の公的機関で同一人物であることの証明を受けてください。
6. 証明書は、出願日から起算して3ヶ月前以内に発行されたものを提出してください。但し、原本が1部しかない場合はこの限りではありませんので、事情を説明するメモを同封してください。
7. 日本の在留資格を有していない者は、新規での査証申請が必要となるため入国が遅れる恐れがあります。
8. 本学の学部・博士前期課程・博士後期課程出身者は当該課程についての「成績証明書」「卒業（修了）証明書」は提出不要ですが、本学で学修していない課程についての「成績証明書」「卒業（修了）証明書」は提出してください。

【中華人民共和国内の大学の卒業（修了）生の方へ】

博士前期課程志願者：1～4（大学学部のもの）を提出してください

博士後期課程志願者：1～6（大学学部のものおよび博士前期（修士）課程のもの）を提出してください

博士前期 博士後期 共通	1	「卒業（修了）証明書（Certificate of Graduation）」の原本または certified true copy 卒業した大学が発行し、18桁の番号が記載されているもの
	2	「学歴認証書」（Verification Report of China Higher Education Qualification Certificate） CHSI（中国高等教育学生信息网）が発行し、英文で記載されたもの。 ※Online Verification Report of China Higher Education Qualification Certificate を提出する場合は、下記の注意をよく読んで手続きをしてください。
		「成績証明書（Transcript of Results）」の原本または certified true copy 卒業した大学が発行したもの。編入等した場合には編入等前の成績も提出してください。
	4	「成績認証書」（Verification Report of China Higher Education Student's Academic Transcript） CHSI（中国高等教育学生信息网）が発行し、英文で記載されたもの。 ※Online Verification Report of China Higher Education Student's Academic Transcript を提出する場合は、下記の注意をよく読んで手続きをしてください。
博士後期のみ	5	「学位証明書（Certificate of Degree）」の原本または certified true copy 16桁の番号が記載されているもの。
	6	「学位の認証書」（Credentials Report） CDGDC（中国教育部学位与研究生教育发展中心）が発行し、英文で記載されたもの ※Online Credentials Report を提出する場合は、下記の注意をよく読んで手続きをしてください。

「学歴認証書」・「成績認証書」・「学位認証書」は申請から発行まで5週間程度かかる場合がありますので、早めに手続きをしてください。出願期間内に上記の書類が提出されていない場合は、出願を受理しないことがあります。

■学歴認証書・成績認証書について

学歴、成績の認証書は CHSI 中国高等教育学生信息网（<https://www.chsi.com.cn/en/pvr>）が取り扱っています。

日本国内では CHSI 日本代理機構（<http://www.chsi.jp>）での発行申請が可能です。

電子データの認証書を提出する場合は、出願期間内に CHESICC（全国高等学校学生信息咨询与就业指导中心）から本学教育支援センター（sckyoumu@tcu.ac.jp）へ、電子メールで直送されるよう手配してください。志願者等による電子メールの転送は出願書類として認められません。

出願期間を過ぎた場合は出願を受理しない場合があります。手続きの詳細は各自で確認してください。

■学位の認証書について

学位の認証は CDGDC 中国教育部学位研究生教育发展中心（<https://www.chinadegrees.cn/cqva/gateway.html>）が取り扱っています。

電子データの認証書を提出する場合は、出願期間内に CDGDC から本学教育支援センター（sckyoumu@tcu.ac.jp）へ、電子メールで直送されるよう手配してください。志願者等による電子メールの転送は出願書類として認められません。

出願を過ぎた場合は出願を受理しない場合があります。手続きの詳細は各自で確認してください。

出願手続き・受験上の注意事項等

8. 願書受付期間および送付先 郵送のみ

出願期間	2022年5月2日(月)～5月5日(木)	必着
上記出願期間内の必着とします。 ※原則として簡易書留・速達またはレターパックプラス(520円・赤色)で郵送してください。 (レターパックライトは不可)。		
送付先	〒158-8557 東京都世田谷区玉堤1-28-1 東京都市大学 教育支援センター 大学院入試 担当	
<注意事項> 出願書類に不備や不足があるものは、受け付けることができませんので、注意してください。 出願手続き後の提出書類の内容変更および返還ならびに入学検定料の払い戻しは認めません。 試験日の2日前までに受験番号通知メールが未着の場合は、直ちに教育支援センターまで連絡して下さい。 国外からの志願者等は、別の指示をする場合があります。		

9. 受験上の注意事項

(1) 試験開始時刻について

志願者は試験日時および試験科目を確認して下さい。別の日時、場所を指示する場合がありますので注意して下さい。

(2) 試験室について

試験当日、学内掲示等で各自確認して下さい。

(3) 面接試験について

①面接試験開始時刻の15分前には、面接控室に入室して下さい。集合時刻に遅刻した者は欠席扱いとし、受験を認めません。

※公共交通機関の遅延で間に合わない場合は、必ず教育支援センター大学院入試担当まで連絡を入れてください。

②面接控室から面接室へは、本学係員の指示に従って移動し、面接試験を終えた者は、面接控室へは戻れません。

③面接控室での読書は認めますが、私語や飲食、他の受験生に迷惑となる行為は禁じます。また、携帯電話やスマートフォン、パソコンなどの電子機器の利用も禁じます。これらに違反した場合には、不正行為とみなしますのでご注意ください。

(4) 国外からの志願者等について

別の指示をする場合があります。

(5) その他

①大学からの指示等に従わない時は、不正行為とみなす場合があります、厳正に対応します。

②別途指示の上、WEB等を利用して試験を実施する場合があります。

指示があった場合に備え、あらかじめ以下の環境を整えておいてください

・コンピューターを所持し、自身が受験する期日・時間帯に動画・音声の送信・受信を行えるインターネット環境と、面接試験ができるような静かな環境・設備(webカメラ・イヤホン・マイク等)を用意すること。

10. その他の注意事項

(1) 試験日当日に不測の事態が生じた場合について

状況に応じて別途措置を講ずる場合は、以下のウェブページに掲載するので、各自で確認してください。

<https://www.asc.tcu.ac.jp/>

(2) 学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症に罹患した場合について

試験当日、学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症に罹患し治療していない者は、他の受験生や監督者等への感染のおそれがありますので、受験をご遠慮願います。ただし、病状により学校医その他の医師において伝染のおそれがないと認めるときは、この限りではありません。なお、上記により受験をご遠慮いただいた場合でも、追試験などの措置、入学検定料の返還は行いません。

(3) 新型コロナウイルス感染症の対応について

新型コロナウイルス感染症に罹患した場合などは、(2)にかかわらず、追試験などの措置を講じる場合があります。

1. 合格発表

2022年5月23日（月）10:00	本学世田谷キャンパス内に合格者の受験番号を掲示するとともに、本人に合格通知書および入学手続き書類を速達で郵送します。
--------------------	---

※上記に加え本学 Web ページに合否結果を掲出する場合があります。この場合、志願者には別途メール等で詳細を通知します。

2. 入学手続き

- (1) 合格者は、本学入学のためには、期限内に入学手続き書類を提出し、入学手続き金を納入しなければなりません。
- (2) **入学手続きの期限 2022年6月10日（金）消印有効**
ただし、やむを得ぬ理由がある場合、納入金については、最長2023年3月10日（金）まで納入延期を認めます。
- (3) 入学手続き書類の提出と入学手続き金の納入はすべて郵送・振込によるものとし、詳細は合格通知の際に同封する「大学院入学手続き要項」を参照してください。
- (4) 納入金について（参考：2022年度入学者納入金）

区分 納入金	入学手続き 納入金総額	分納希望者の場合	
		入学手続き時	2022年 10月20日まで
入 学 金	240,000	240,000	—
授 業 料	1,190,000	595,000	595,000
合 計	1,430,000	835,000	595,000

- ①授業料の分納を希望する場合、入学手続き時と翌年の10月20日までに分納することができます。
また、2年次以降の授業料は、当該年度の始めに改めて通知します。
- ②本学からの進学者（2023年3月 本学卒業見込者及び修了見込者）および東京理工系大学の協定に基づく特別推薦入学者（2023年3月 卒業見込者）は「東京都市大学大学院研究科奨学規程」に基づき入学金240,000円が免除されます。また授業料についても、同規程の適用により免除されることがあります。
- ③いったん納入した入学金および授業料は、理由のいかんにかかわらず返還しませんので充分ご注意ください。
- (5) 私費外国人留学生（在留資格「留学」を有する者、または取得見込みの者）に対し、特別な経済的支援として3割の授業料減免措置の実施する場合があります。減免措置を希望する場合は入学後、所定の手続きを行ってください。なお、初年度の減免措置は後学期分の授業料にて行います。減免措置を希望する場合であっても上記の分割納入の金額にて入学手続きを行ってください。
- (6) 社会人選抜により入学した者については、博士前期課程で5割、博士後期課程で9割の授業料が減免される場合があります。減免措置を希望する場合は出願時にD票あるいはE票の所定の欄にその旨を記載して下さい。
- (7) 海外協定大学を卒業した私費外国人留学生のうち一定の条件を満たす者に対し、経済的負担を軽減し、優秀な人材の育成を目的として授業料減免措置を実施する場合があります。減免措置を希望する場合は入学後、所定の手続きを行ってください。なお、初年度の減免措置は後期分の授業料にて行います。減免措置を希望する場合であっても上記の分割納入の金額にて入学手続きを行ってください。
- (8) 社会人選抜により入学した者については、博士前期課程で5割、博士後期課程で9割の授業料が減免される場合があります。減免措置を希望する場合は出願時にD票あるいはE票の所定の欄にその旨を記載して下さい。
- (9) 研究助手制度について
博士後期課程の学生を対象とした研究助手の制度（定員あり）があります。研究助手は、指導教授の指示に従い、研究及び教育の補助を行うもので、月手当金が支給されます。
- (10) 入学辞退について
入学手続き完了後にやむを得ぬ理由により入学辞退を希望し、原則として2023年3月31日（金）17:00までに入学辞退を申し出た場合は、入学金を除く納入金は返還します。詳細は合格通知の際に同封する「大学院入学手続き要項」を参照して下さい。ただし、学内推薦入試合格者は入学辞退することはできません。

3. 奨学金制度

- 本学からの進学者（2023年3月本学卒業見込者及び修了見込者）の入学金は全員免除されます。
- 博士後期課程及び博士前期課程については、学力・人物ともに優秀な学生に学費の免除を行う奨学制度があります（下表①参照）。この奨学生の選考に当たっては、本学からの進学者が選考対象となります。他に下表②～⑥のような授業料減免、給費奨学制度があります。
- 貸与奨学金の代表例として、日本学生支援機構奨学金があり、無利子貸与（第一種奨学金）と有利子貸与（第二種奨学金）の二種類があります。

① 大学院奨学生（本学独自）

課程	学年	学費免除額	備考
博士後期	D 5	全額免除または半額免除	内部進学者のみ。
	D 4		
	D 3		
博士前期	M 2		
	M 1		

② 社会人選抜入学者授業料減免（本学独自）

課程	学年	学費免除額	備考
博士後期	D 5	授業料年額の 90%	社会人選抜入学者且つ減免希望者のみ。
	D 4		
	D 3		
博士前期	M 2	授業料年額の 50%	
	M 1		

③ 私費外国人留学生授業料減免（本学独自）

対 象	学費免除額	備考
次の全てを満たす者 (ア) 本学と交流協定を締結している海外大学を卒業した者 (イ) 協定大学在籍時の最終 GPA 値が 3.0 以上の者 (ウ) 本学大学院に在籍する者	授業料年額の 75%	学内私費外国人留学生授業料減免委員会が選考し学長が決定する。
次の全てを満たす者 (ア) 本学と交流協定を締結している海外大学を卒業した者 (イ) 協定大学在籍時の最終 GPA 値が 2.5 以上 3.0 未満の者 (ウ) 本学大学院に在籍する者	授業料年額の 50%	
学部又は大学院に在籍する者	授業料年額の 30%	

④ 今泉奨学金（本学独自）

課程	学年	給 費 額	備考
博士後期	D 5	50 万円を上限とする ※1	専攻指定あり 内部進学者のみ（大学院奨学生を除く） ※1 学内専攻主任会議にて選考し研究科長が決定する。
	D 4		
	D 3		
博士前期	M 2		
	M 1		

⑤ 佐野利秋国際交流奨学金（本学独自）

課程	学年	給 費 額	備考
博士後期 博士前期 (留学生)	全年	授業料年額の 50% を上限とする ※2	アジア地域からの私費外国人留学生。(ただし、建築・都市専攻に在籍する者を最優先とする。) ※2 学内専攻主任会議が選考し学長が決定する。

⑥ 各種奨学生（以下は給費奨学金実績の一部）

団体名称	支給月額/年額	条 件
(公財) 日揮・実吉奨学会	300,000 円 (年額)	理工系所属の学生で、人物・学力ともに優れ、かつ、健康であって、経済的に本会の奨学金の給与が必要であると認められること。原則として年齢 30 歳未満であること。
(公財) ローターリー米山記念奨学金	140,000 円 (月額)	45 歳未満の者で学業優秀の他、異文化理解、コミュニケーション能力に対する姿勢や関心を持ち、心身ともに留学生活に耐えうる健全な者
(一財) 守谷育英会	120,000 円 (月額)	東京都内の大学に在学また東京都内に居住で学業・人物とも優秀であって、学資の支弁が困難な者
文部科学省 外国人留学生学習奨励費	48,000 円 (月額)	学業・人物ともに優れ、かつ留学生生活上経済的援助が必要であると認められる者

4. 受験生の個人情報の取扱いについて

手続書類を通じて収集した住所・氏名等の個人情報は、大学からの連絡・資料等の発送や統計的集計に利用いたします。それらの業務を超えた利用はありません。また、個人情報は、厳重に管理いたします。

5. 課程を修了するために必要な修得単位数

博士前期課程

実習	4 単位	※ 1
特別研究	8 単位	
小 計	1 2 単位	※ 2
授業科目	1 8 単位以上	※ 3
合 計	3 0 単位以上	

博士後期課程

講究	8 単位
研究	1 6 単位
合 計	2 4 単位

※共同原子力専攻の場合は、※1 演習：2 単位、※2：1 0 単位、※3：2 0 単位

6. 入学試験結果の情報開示について

本学で実施する大学院一般入学試験の結果について、受験生の個人情報に限定して、受験生本人に開示することとします。開示を希望する受験生は、以下に定める請求手続を行ってください。入学試験結果を受領する方法は2通りあり「a. 本学窓口にて受領する方法」と「b. 郵送により受領する方法」があります。試験結果を受領する方法は請求手続により異なりますので下記(3)②ウ)によりご確認ください。

- (1) 個人情報の開示対象者 本学で実施する大学院一般入学試験を受験し不合格となった受験生本人を対象とする。
- (2) 請求手続により本人に開示する個人情報 受験した試験科目がある場合その得点、面接の結果。
- (3) 個人情報の請求方法

①請求期間 2023年4月1日～4月30日(消印有効)

②請求手続 以下の書類を同封の上、簡易書留にて、本学教育支援センター宛に送付してください。

ア) 次の事項を記載した「入学試験結果開示申請書(様式自由)」

受験番号(複数の場合は連記して下さい)、氏名、生年月日、出身大学名、連絡先(住所及び電話番号)

イ) 本学発行の受験票のコピー

複数の入学試験結果を請求する場合は、該当する入試方式の受験票のコピー(A4用紙)を同封してください。

ウ) a. 本学窓口での受領希望者

「郵便はがき」1枚……請求者の住所、氏名を宛名書きしたもの。請求手続完了者に受領日程をお知らせするための通知と「入試結果受領書」を兼ねる「郵便はがき」です。私製はがきの場合は63円の郵便切手を貼ったものを同封して下さい。住所(郵便番号含む)、氏名は必ず記載してください。

b. 郵送による受領希望者(郵送料440円)

「A4サイズ封筒」1枚……請求者の住所、氏名を宛名書きし、440円分の切手を貼付したもの。請求手続完了者に入学試験結果を郵送するための「封筒」です。A4サイズの封筒に住所(郵便番号含む)、氏名を宛名書きし、切手を貼り2つ折りにして同封してください。

「b. 郵送により受領する方法」を推奨します。

- (4) 個人情報の受領方法

①受領期間 2023年6月1日～6月30日(日曜、祝祭日は除く)

本学窓口での受領を希望する請求手続完了者には、上記期間内の受領予定日を、前記(3)②ウ) a. の「郵便はがき」でお知らせいたします。また、郵送による受領希望者には、前記(3)②ウ) b. の「A4サイズ封筒」にて郵送いたします(上記受領期間内に郵送します)。

②受領場所 本学教育支援センター(世田谷キャンパス)。原則として本人へ手渡します。

③窓口での受領の際に必要なもの…該当する入試方式の「受験票(本証)」と本人であることを証明できるもの(学生証、健康保険証等)



東京都市大学

世田谷キャンパス 教育支援センター

〒158-8557 東京都世田谷区玉堤 1-28-1

TEL : 03-6809-7445

FAX : 03-5707-2200

メール : sckyoumu@tcu.ac.jp
